

働き方・生き方こころの軸 ⑥

「洋々として大海を満たし、
発しては雲となり雨と変じ、
凍つては玲瓏たる氷雪と化す。
しかもその性を失わざるは水なり」

中小企業診断士 大野 実雄

おお の じつ お
大野 実雄
中小企業診断士・販売士

●プロフィール
メーカー、経営コンサルティング
ファームを経てオオノ経営労務事
務所開設。「変化には変化でしか
対応できない」を企業支援の基本
としている。著書に「売れるよう
に売れば必ず売れる」「働き方・生
き方こころの軸」「勝つ企業」等
がある。



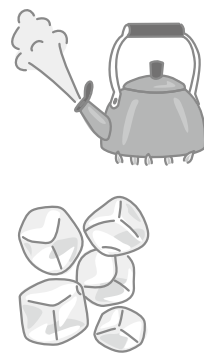
① 水五訓 ⑤

「洋々として大海を満たし、
発しては雲となり雨と変じ、
凍つては玲瓏たる氷雪と化す。
しかもその性を失わざるは水
なり」

- ① 水はどんな容器の中にも入っていく。それは液体としてどんな形にも対応するからである。
- ② 水は熱せられれば、水蒸気という気体になって大気中に浮かぶ。
- ③ 水は冷却されれば、氷という固体になって己を存在させる。
- ④ 水は無味無臭なるが故に、砂糖を入れれば甘くなり、塩を入れれば塩

味となる。

- ⑤ 水は石を投げ込まれても、しばらくすると元の静けさを取り戻す。



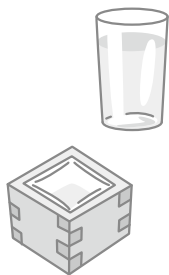
② しかもその性を失わざるは水なり

- ① 『古池や蛙とびこむ水の音』芭蕉の句の一つの解釈として、水のようになにがあっても動じず、元の自分の姿を取り戻すといった、相手を包

- ・ 出来事においては、能力を好む。
- ・ 行動においては、正しい時を好む。
- ・ このように、我々は争わないから、まちがうことはない。



③ 老子「道德経8章」——上善は水のごとし



- を失わないところに水の真価がある。
- ⑦ 経営においても、環境の変化に対して柔軟であり、変化をチャンスに変える経営能力が求められている。
- ⑧ 本質(目的や経営理念)は守りつつも、手段(やり方や戦術)は変幻自在に振る舞うことが求められている。

- ① 道德経8章の主な内容
- ・ 最上の善とは水のようなものである。

- ・ 水はあらゆるものに利益を与え、争わない。それは人の嫌う地味な場所でもいつも満足している。
- ・ このように、水は「道」に近いものである。
- ・ 我々は住むために、地味な場所を好む。
- ・ いろいろな考えのためには、奥深さを好む。
- ・ 友だちとの交わりには、心やさしさを好む。

- ・ 言葉には、誠実さを好む。
- ・ 政治には、良き秩序を好む。

- ② 水は万物をうるおし、利をあたえているけれど、だからといって自分を主張することはなく、いろいろな器に添って形を変えるので対立なく争わない。また皆がいやがる下のほうに身をおいているのである。

- ③ 水のように流れに逆らわず、無為自然の生き方をすれば、人間は必ず納まるころへ納まるものなのである。

- ④ 「老子」は水に人の生き方をことばに表している

- ・ 手に持つ器に水を満たし、こぼすまいと心配するくらいなら、初めから満杯にすることはない
- ・ 土地が人の嫌がる低い窪地であれば、かえって水が満ちる
- ・ にわか雨が一日中降り続けることはない

- ・ 世の中で最も軟らかいもの(水)が、最も硬いもの(岩)を制圧している
- ・ 水より弱々しいものはない

④ その他の「水」に関する格言



- ① 水広ければ魚大なり(淮南子)・・・君主の度量が大きければ賢臣もそれ集まること。

- ② 水は湿りにつき火は乾につく・・・因縁のある方に動くたとえ。

- ③ 水鏡私無し(三国蜀志)・・・水と鏡は物の姿をそのまま写して公平であることのたとえ。

- ④ 水魚の交わり(三国蜀志)・・・君臣の間柄の親密なこと。

- ⑤ 宝水・・・寝る前に飲む水のこと。

- ⑥ 水は生命の根源である(ターレス・・・古代ギリシャの哲人)

水の如く『変化には変化』



- 「しなやかな心」を持って、己の成長を促し、己の会社(組織)を発展させようではありませんか。